

はばたけ

№ 31

栃木障害者の自立を促す会
発行責任者 中山 全史
〒321-2336
栃木市大井町 2-2-1
発行日 1984. 8. 20

私達は
障害者が地域の人々と共に
いざいざと生活していける
「たづくり」をすすめてい
たいです。



包線の福祉作業所 ゆりの家の開所 にあたっての御礼

指導員 本間・斉藤・石川・新井の
四氏を迎え、県の認可を受けた共同作
業所「ゆりの家」開所に当りまして長
年の間ご援助いただきました会員の皆
様には、ここに紙面をお借りしまして
厚く御礼申し上げます。

四月五日、所内で簡単な開所式を済ま
せましたが、六月二日には市の福祉
事務所長をお迎えして、百十数名の参
加のもと、ケイブルテレビの取材を受
け、盛大に開所パーティーを催すこと
が出来ました。まづはご報告申し上げ
ます。

ここに至るまでには、自立の姿勢員
一同話し合いを大切にしてきた姿勢に
七年間の苦労が尽きると思っています。



中山 全史

夢 W E I T H ユウズ

共同作業所「ゆりの家」指導員の本
間です。私は実際の年よりは若く見ら
れることが多いのですが、すでに三十
路を過ぎ、そしてあまり自慢にはなり
ませんが、ここが四つ目の職場となり
ます。

一つ目は、大学卒業後、結城市に新
設された精神薄弱者授産施設に就職。
次には同僚たちと張り切っていました
しよと仲間たちと張り切っていました。
そんな世間知らずでしたが、まじき
指導者に出会い、ここで働き生活して
いる園生たちに多くのことを学びまし
た。

二つ目は、ふるさと新潟の無認可作
業所です。最低の条件でも(だからこ
そ)みんなの知恵と力を合わせれば、
すばらしい取り組みができることや、
そのためにも保護者集団の協力が不可
欠であることを学びました。

三つ目は、再び結城に戻り一般企業
へ。しかし自分が本当にやりたいこと
は何なのか。そんなある日「求む指
導員。語り合つて作業所づくりをし

本間 英樹



しよう。」という広告を偶然目にし
たことよって、この問題は解決しまし
た。

この四月に、「自立をめざす会」が
運動を進めてきた成果の一つとして共
同作業所「ゆりの家」が開所。私も指
導員として関わることになり。またい
ろいろと学べることを幸せに思いま
す。条件的には厳しい、多岐の課題もあ
り、自分の力不足を日々痛感していま
すが、「ゆりの家」はスタッフに恵ま
れ、保護者・関係者の力強い協力があ
り、そして何より仲間たちの明るい笑
顔があります。みちのりは長く、決し
て来ではないかも知れませんが、いま
もみんなで夢を語りあえる作業所にし
ていきましよう。どうぞよろしくお願
いします。

自己紹介

斉藤 正治

この度、「共同作業所ゆりの家」の
職員となりました斉藤正治(まさはる
)と申します。ただいま二十二歳の青
春真っ只中です。今年の三月に仙台の
東北福祉大学を卒業し、現在は佐野市
流出原(いずみはら)町の自宅から通
つボランティア活動の経験はありまし
たが、障害者施設での経験や障害者
との交流といったものはなかったかと
不安な面もありました。でも実際にや
り、真面目そうなお私です。冗談を
言つて人を笑わせるのは好きです。し
よ、心の中で笑つていたりもします。こ
れからもっと私のそういう部分は出て
くると思いますので、期待(覚悟?)
して下さい。趣味は、ロックを聴
くことと読書なのですが、今は忙しく
あまり出来ません。また、今では人
と一緒に来しめる趣味を見つけたいで
す。また、そういう人も見つけたいで



早苗のすずまを 受けとめてくれる 素直な「ゆうの家」 指導の「ゆうの家」

これほど時間をかけ、考えられるほどの事をやっただと思う親の会は、県内ではそうないだろうと思つているのですが、その中でも「これは一番」と密かに自慢しているのが「話し合いの時間」です。この七年間の時間が会の基礎をつくり、七年を短いものにしたと思つていきます、今日につながった

私の口癖(生き方)「まあいいか」を私でくれたのは同じ価値観を持った仲間でした。目標はまだまだ先ありますが、一息ついたら頑張ろうと思つていきます。



作業所「ゆうの家」はスタートしてまだ二カ月なのに、早苗のすべてを受けとめてくれ、はじめ学校の美智代と思つていた早苗もまったく「学校やすみ」を言わなくなりました。指導の中で素晴らしいと思つるのは、長所を全面でとらえ、短所を受けとめ指導してくれることです。少しづつ変化をもたせた毎日の作業も意欲になっていようです。子ども達を中心に考え支えてくれる指導員・ボランティアのみならず、ありがとうございます。

高木 文江



夜の学習会

斉藤 正治

四月二十九日金曜日、共作連の洗ひセンター所長の菅井真さんと宇都宮のこぶし作業所の高橋温美さんを迎え、「ゆうの家」において本間・斉藤両職員の見学をおよび学習会が開かれました。学習会には、「ひろがれ共同作業所」(ぶどう社)をテキストに、共同作業所の歴史や理念、その目指すものから運営面、法的なものまで、作業所内での仕事に精一杯だった私などには、もつと広い意味で作業所というものを考える良い機会となりました。

学習会の後は、途中で食事やアルコールなども交えながら、所内での問題点や職員の悩みに対する討論が延々と続き、菅井さん・高橋さんをはじめ中山所長、島田さん、殿塚さんらの考えやアドバイスに触れて、また一段とやる気と自信がみなぎってくる思いでした。その夜はそのまま布団を敷いて、十二時過ぎに消灯しました。初めて過ごす「ゆうの家」の夜は、寒かったですですが暖かいものでした。(?)

働けるってすばらしい

殿塚 ケイ子



自立をめざす会が発足して、今年で七年目を迎えました。三月には、我が子の養護学校高等部の卒業を迎え、いよいよという時に、私達が望んでいた良き指導員に出会い、しかも四月から認可を受けての「共同作業所ゆうの家」がスタートできたことを夢のように思っています。

みなさまに支えられ、私達も頑張つてこられたことにあると思います。四月六日には、仲間と指導員、ボランティアの人達で開所式をしました。指導員のアイディアあふれる式に感激し、仲間の笑顔はキラキラ光つていました。「これから頑張るぞ!」という意気込みを感じました。

今では地域の人達から仕事をいただいている姿は、自信さえ感じます。一日の作業の終わりに、歌を歌って終わります。大きな歌声の

中には、「あしたも頑張ろう!」という活力が湧いてきたそうです。また充実した一週間が終わると、日曜日には、次の二週間のためにゆくり余裕をもって休むことが出来ます。最近の明るく生き生きとした我が子を見るたびに、「楽しく働けるってすばらしいな」とつくづく感じます。これから仲間がどんどん増えることを希望し、大きな夢に向かって頑張っていきたいです。みなさまのご協力をこれからも是非、よろしくお願い致します。



自立の会

「ゆうの家」が始まり二カ月。職員さん、親子ともども頑張つて、楽しみ・喜び・戸惑い、とても色々な事を経験しています。仲間と働くという事が、こんなにも人を褒え、素敵なお顔になる。仲間どうし助け合い、力を出しあっている姿をこれからも見ていきたいと思えます。これらも皆さんの力を借り、明るく楽しい作業所が続けていけるよう、見守つていきたいと思つていきます。

